

第3回安曇野市環境審議会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 会議名 | 第3回安曇野市環境審議会 |
| 2 | 日時 | 令和5年11月17日(金)午後1時30分から午後2時55分まで |
| 3 | 会場 | 豊科交流学習センター「きぼう」 |
| 4 | 出席者 | 環境審議会 植松晃岳 会長、樋口嘉一 副会長、横田耕太郎 委員、
中林嘉世子 委員、塚田弘子 委員、山崎淳 委員、畑中健一郎 委員、
渡辺正幸 委員、今井隆一 委員、岡江正 委員、堀井勇司 委員、
降旗幸子 委員、原弥生 委員、平林昭敏 委員、磯野康子 委員 |
| 5 | 市側出席者 | 市民生活部 沖部長、環境課 高橋課長
環境政策担当 百瀬補佐、丸山補佐、土屋主査、古屋主事
環境保全係 土屋係長
資源循環推進担当 西牧係長 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0名 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和5年11月21日 |

協 議 事 項 等

【進行表】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
 - (1) 令和5年度環境課の事業中間報告について
 - (2) 安曇野市版レッドデータブック改訂について
 - (3) 第4回安曇野市生きもの調査について
 - (4) 安曇野市公害防止条例の改正について
4. その他
5. 閉会

【議事】

報告事項(1) 令和5年度環境課の事業中間報告について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

特になし

報告事項(2) 安曇野市版レッドデータブック改訂について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

(副会長)「安曇野市版レッドリスト カテゴリー別集計表」のカテゴリーに、「情報不足(D D)」とあるが、何を指すのか。また、新の数が旧より増えている。このことに対して何か対応

はしているのか。

(会 長) 目に見えないところにいる生物についてはよく分かっていない。全体的に調査が進んでいないものを「情報不足」としている。そのようなものに対しては、評価ができない。新の数が旧より増えているということは、レッドリストの生物が増えてきているということである。今回、この植物はどのように増えたのか、この動物はどのように減ったのかを記載することが目的である。これからどうしていかうかというところまで踏み込まなければ、ただ作っただけになってしまう。運用しなければ意味がないため、作っただけにならないよう、意味あるものにしていく。

(委 員) 植物の「絶滅 (EX)」の数が、32 (旧) から11 (新) に減っているが、どのように理解すればいいのか。

(環境課) 以前は厳しくランク付けをしていたが、後から見つかった種もあるため、絶滅の数が減っている。

報告事項 (3) 第4回安曇野市生きもの調査について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

(委 員) 中間報告の情報件数が586件とあるが、何人が報告しているのか。データがあれば教えていただきたい。

(環境課) 確認して、後日報告する。

(委 員) 生きもの調査の種名リストが掲載されているが、どのような生きものかも掲載してほしい。写真があると分かりやすく、関心を持ちやすい。学校に配って、知ってもらえるといい。

(環境課) 自然観察会の参加者や窓口に来られた方には配布しているが、全小中学校の生徒への配布は行っていない。自然観察会の参加者等に配布する際は、写真がついたものを配布している。アピールの仕方を、検討していく。

報告事項 (4) 安曇野市公害防止条例の改正について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

特になし

その他

<環境課から説明>

ゼロカーボンや市長への提言について

<質疑・意見>

(委 員) ゼロカーボン宣言をした以上、エネルギーの地産地消の体制を取っていかなければならない。事業を進める事業主と行政がタイアップできる組織、いわゆるゼロカーボン推進協

議会のような組織を立ち上げて、官民一体の組織を作っていくことを検討してほしい。

(環境課) 官民一体で、エネルギーの地産地消を目指して行動していく必要がある。協力して進めていきたいと考えているので、情報があれば提供していただきたい。

(会 長) 官民で協議会を作る場合、どのような組織になるのか。誰が呼び掛けをして、どのような体制になるのか。

(環境課) 現時点で、確定的なことは言えない。環境課が音頭をとらなければならないと思うが、情報収集していくなかで、工業会や商工会、観光協会にお願いをして進めていくことになるかとは思ふ。その際は、環境審議会でも協議する。

(副会長) ゼロカーボンに関するプラットフォームを作り、共有してくことを前提として進めてほしい。

(委 員) 一般の人にとって、ゼロカーボンが生活に直接関係しているという意識はあまりないように感じる。命に係わる状況が近づいていることと、エネルギー問題が密接につながっていることを感じてほしい。自分たちの命を守るという、身近な部分でのエネルギー問題が、ゼロカーボンに向けての活動につながっていく。協議会やプラットフォームは当然必要だが、一般市民の生活に合わせた方法や補助政策を並行で進めていくことを要望する。

(委 員) 人が環境に配慮した行動をするときは、二つの段階があると言われている。一つ目は、環境問題の危機を認識することである。二つ目は、行おうとしている行動が実際にできるかどうかや費用が効果に見合うかどうかである。いくら普及啓発をしても、実際に行動するかはそれが得かどうかで判断するため、予算面を含めて進めてほしい。また、温暖化の適応策の策定について、他の市町村を参考に力を入れていってほしい。

(会 長) 県内市町村で、地球温暖化に関する協議会が作られた事例はあるのか。

(委 員) 県では関心のある人が集まって行っているものはあるが、相手が事業者というわけではない。

(会 長) イニシアチブを誰が取るのかというところで止まってしまう。また、適応策を同時進行で考えていかなければならない。今年度の審議会はあと2回ある。その間に方向性だけでも決められるといい。良い案があれば今後お示ししていただきたい。

(委 員) 新聞に、静岡県掛川市の紙おむつの処理について掲載されていた。一般の家庭ごみは全国的に減少傾向にあるが、使用済み紙おむつの廃棄量は増え続けている。紙おむつは燃えにくいいため、掛川市では焼却炉に助燃剤として灯油を投入している。助燃剤の購入費は2年前より倍増し、1億数百万円に上っており、自治体の悩みになっている。燃やせば燃やすほど、二酸化炭素も排出される。さらに、紙おむつと助燃材を燃やすと高温を発生し、焼却炉にも損害を与えてしまうという内容のものであった。数十団体の自治体取り組みを進めているが、これから大きな問題になる。安曇野市では、これからどのようにしていくのか。また、予算はどのようなになっているのか。

(環境課) 市内の紙おむつは穂高広域施設組合で処理している。どのように処理しているか確認する。

(委 員) マイクロプラスチックについて、海に流れ着くマイクロプラスチックのうち、洗濯をする際に衣料品の繊維から出るものが一番多いということ、洗濯ネットを使用すると、マイクロプラスチックの流出が削減できることも掲載されていた。洗濯ネットは使用しているが、削減につながることを自体は知らなかった。いろいろなところで情報発信をしてほしい。

(午後 2 時55分 議事終了 閉会)

【今後の予定】

- ・ 1 月18日 第4回環境審議会